



# 水道橋畔発

第28号 平成30年12月



## 水道橋病院の新たな取り組み

東京歯科大学水道橋病院 病院長 矢島 安朝

医科(外来、入院)および歯科受療率の比較

平成26年9月8日  
厚生労働省  
和田委員提出資料



図をご覧ください。これはわが国の医科と歯科の年代別受療率を比較したものです。医科外来の受療率は80才位から減少し始めます。当然です。高齢者は多病です。年齢が高くなればなるほど多くの病気を抱えているため、この年齢になると高齢者は入院や介護施設に入ってしまうわけです。したがって、医科入院の受療率は75才くらいからウナギ登りに増加し続けます。一方、高齢になればなるほど口腔の問題は増加し、歯科の需要は高くなるはずですが、歯科診療所の受療率は70歳位から低下し続けています。これは、歯科の問題を抱えている多くの高齢者が、同時に全身的な疾患も年齢とともに

重症化して入院を余儀なくされるからでしょう。入院した病院には歯科自体がないため、歯科への需要があるにもかかわらず、かかりたくても受診できない状態なのではないかと予測されます。つまり、外来中心の歯科医療だけでは、すでに患者のニーズに対応できないことが明らかなのです。歯科医療が医科入院受療率の急カーブに追随し、歯科医療を必要としている医科入院患者の要望に応えることが、これからの歯科大学病院の方向性であると考えています。当病院では2年前より近隣の歯科標榜のない複数の医科病院と医療連携協定を結んでいます。当病院から医科病院への貢献は、周術期口腔機能管理、摂食嚥下リハビリテーション、無呼吸症候群等が主な診療内容となります。これらは、主に福田教授の口腔健康科学講座が受け持っていると考えています。今後も更に多くの病病連携を確立し、大学病院ならではの**都会型訪問診療体系**を確立したいと考えています。これが水道橋病院の最も新しい取り組みです。

今回の水道橋畔発では、杏雲堂病院との連携についてご紹介しております。また、本年度の医療連携報告会の様子も記載されております。今年度で定年退職される3名の先輩教授のご講演に、多くの先生方がお集まりいただき誠にありがとうございました。今後とも東京歯科大学水道橋病院を何卒宜しくお願い申し上げます。

### 医療連携報告会プログラム

日時：平成30年10月3日(水) 18:30～  
テーマ：「次の世代に伝えたい!—歯科医療の未来は?—」

#### 【第1部 医療連携報告会】

司会：地域医療連携委員会委員長・副病院長 山下 秀一郎

開会挨拶 地域医療連携委員会委員長・副病院長 山下 秀一郎

講演① 「老年歯科医学の観点からみた歯科医療の方向性」

老年歯科補綴学講座教授 櫻井 薫

講演② 「近未来的ロードマップ、

再生医療とAIが現在の歯科治療を超える日」

臨床検査病理学講座教授 井上 孝

講演③ 「矯正歯科治療の近未来

—いつまでも若く健康的な噛み合わせを—

歯科矯正学講座教授 末石 研二

閉会挨拶・お礼 水道橋病院長 矢島 安朝

抄録集につきましては、以下URLよりダウンロードできます。

<http://www.tdc.ac.jp/sh/area/tabid/292/Default.aspx>



## 医療連携報告会報告

東京歯科大学水道橋病院 地域医療連携委員会委員長 山下 秀一郎



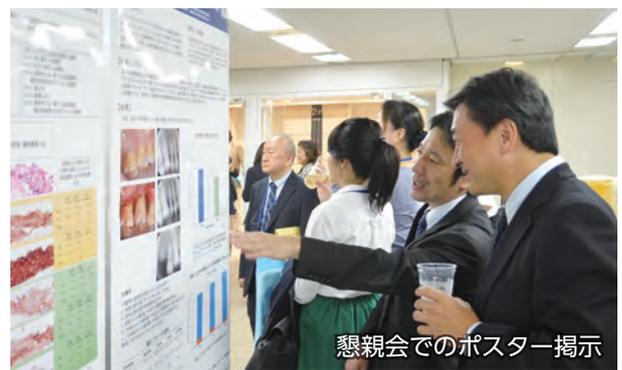
平成30年度の医療連携報告会が10月3日(水)に血協記念ホールにて開催されました。今年度の報告会は、「次の世代に伝えたい!—歯科医療の未来は?—」という



メインテーマの下に、老年歯科補綴学講座の櫻井 薫教授には「老年歯科医学の観点からみた歯科医療の方向性」、臨床検査病理学講座の井上 孝教授には「近未来的ロードマップ 再生医療とAIが現在の歯科治療を超える日」、歯科矯正学講座の末石研二教授には「矯正歯科治療の近未来 —いつまでも若く健康的な噛み合わせを—」の3講演をお願い致しました。3演者とも今年度で退職予定の先生であり、これまでの臨床や研究の成果を伺ったばかりではなく、これからの歯科の動向を踏まえて、我が国のあるべき医療の姿を考える上で非常にタイムリーな内容でした。講演後に設けた質疑応答の時間には多くの質問が寄せられ、会場の血協記念ホールは熱気に包まれておりました。報告会終了後の懇親会は南棟2階の会議室で開催されましたが、日頃から患者さんをご紹介頂いている多くの先生方と直接的に顔を見ながら親睦を深める

ことができ、非常に有意義な場となりました。

お陰様で、報告会では学外から200名近い参加者をお迎えし、学内と合わせると総勢約340名と盛会裏に終わることができました。本学と医療連携機関との絆をより一層深めることができたのではないのでしょうか。



懇親会でのポスター掲示



特集

## 病・病連携 [杏雲堂病院]

水道橋病院で進めている病・病連携について 一医科歯科連携を推進する意図は？

東京歯科大学水道橋病院 地域医療連携委員会・地域医療連携室

我が国では、2007年に高齢化率が21%を超えて世界最速で超高齢社会に突入した後、総人口の減少により高齢者の割合は増加の一途を辿っています。2018年に高齢化率は27.7%となった後、2060年には39.9%まで到達すると予測されています。また、高齢者、特に75歳以上の後期高齢者が増加した場合、その約30%が要介護高齢者であるため、医療、介護、福祉といった社会保障の観点から地域全体で高齢者の生活を支え、



歯科衛生士による病院での口腔衛生管理

いわゆる地域包括ケアシステムの構築が望まれるところです。これにともない、これまで歯科医療機関で完結し、外来診療を中心とした提供体制に加えて、入院患者や居宅の療養者等への診療も含めた提供体制を構築することが必要となります。その際には他職種や他分野との連携のもと、周術期等の口腔機能管理や訪問歯科診療を中心とした医科歯科連携を進める状況が必須です。

このような流れの中で、歯科大学においては、次世代を担う学生や研修歯科医にとって、多様なキャリアパスを描けるようカリキュラム・研修内容を工夫すべく、



歯科医師による病院での口腔衛生管理

教育内容の充実を図って方向性を再検討する時期にさしかかっています。医療機関や介護保険施設が行うカンファレンス等において、主として歯科医療従事者が中心となり、他職種に対して歯科保健医療の必要性を伝えていけるような人材育成が重要な課題です。さらに、歯科医療機関と関係機関との事務的な調整を行う人材の確保も必要です。

当院は都市型のコンパクトな歯科大学附属病院という



歯科医師と看護師との患者情報伝達

特徴を生かし、診療の場を院外にも求めるという考えのもと、近隣の総合病院や大学病院との病・病連携を求めているところです。歯科医師、歯科衛生士がその専門性を活かし、口腔機能管理等に介入することで、患者により質の高い医療を提供しQOLの向上に貢献できるものと考えます。さらに、このような連携システム

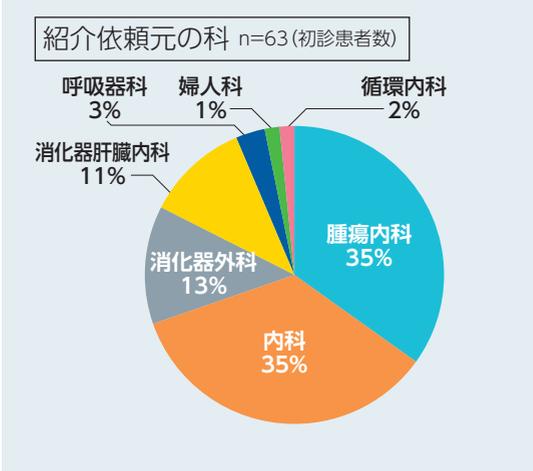
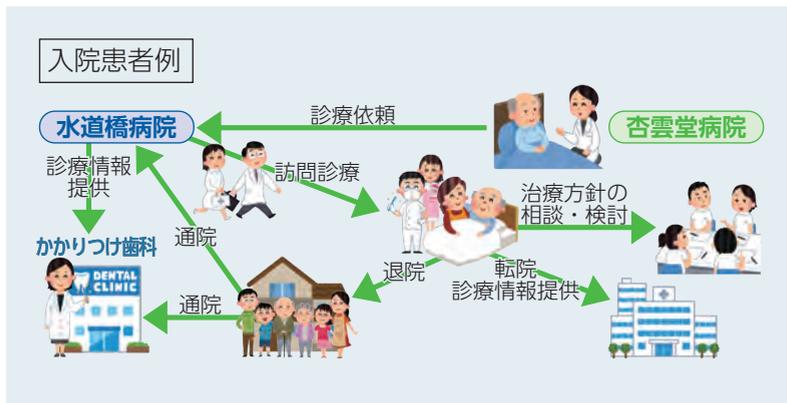
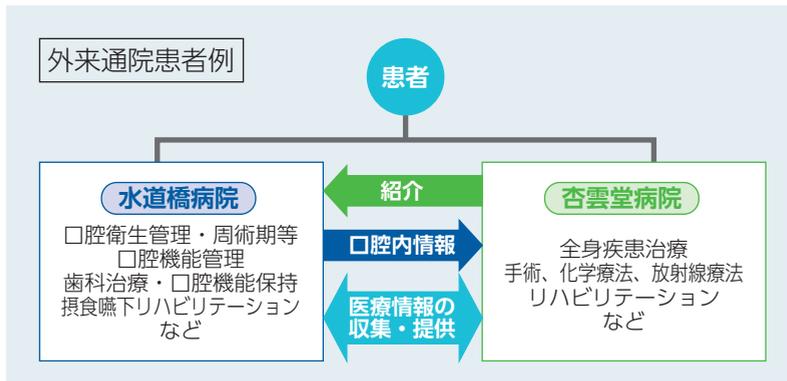


歯科医師と言語療法士との摂食嚥下訓練

を構築することは、歯科医師や歯科衛生士にとって、自院と違う医療現場を経験し他職種と連携することで、自らの視野を広げる機会を提供できると同時に、上記の歯学教育の発展のために重要な礎を築くことになると思っております。

今回、当院で現在進めている杏雲堂病院との病・病連携を紹介致します。記事を通じて当院の医療連携の方向性について理解を賜れば幸いです。

### 病院連携関連図と患者集計



### がん患者における杏雲堂病院と東京歯科大学水道橋病院との連携について

佐々木研究所附属 杏雲堂病院 腫瘍内科 河野 勤

杏雲堂病院腫瘍内科では、悪性腫瘍を患う患者さんの診療を行っておりますが、その中では様々な□腔内トラブルが経験されます。悪性腫瘍を患うことのみで、免疫力低下等によって□腔内感染を起しやすくなりますが、さらに、様々な薬物治療や放射線治療によって□腔内トラブルが出現するため、東京歯科大学水道橋病院に専門的診察、□腔ケアをお願いすることが多くなってまいります。

□腔内トラブルを引き起こす薬物治療では、抗悪性腫瘍薬や骨吸収抑制薬が代表的であります。

抗悪性腫瘍薬による□腔内トラブルは、従来の殺細胞性抗がん剤（シクロフォスファミド、ドキソルビシン、エトポシド、メソトレキセート、イリノテカン、フルオロウラシル等）による□腔内粘膜障害（oral mucositis）と、昨今の分子標的治療薬（エベロリムス、ゲフィチニブ、ソラフェニブ、スニチニブ、ベバシズマブ等）による□内炎（stomatitis）に分類されます。これら□腔粘膜障害、□内炎は患者の QOL を著しく低下させる要因となるだけでなく、重篤な感染症の引き金となることにより、抗がん治療の中止、さらには、命に関わる事態をも引き起こすこともあります。このため、抗悪性腫瘍薬を用いた化学療法を計画する患者さんでは、事前より東京歯科大学水道橋病院による専門的診察、□腔内ケアをお願いすることで、□腔粘膜障害、□内炎を重症化させないように予防することに繋がっております。

骨吸収抑制薬ではゾレドロン酸およびデノスマブが

骨転移治療、骨粗鬆症治療に広く用いられております。これら骨吸収抑制薬の副作用である、顎骨壊死（Medication-Related Osteonecrosis of the Jaw: MRONJ）は、頻度こそ少ないですが、いったん発症すると極めて難治性であり、予防が重要とされています。骨吸収抑制薬開始前および治療中にも、東京歯科大学水道橋病院による専門的診察、□腔内ケアをお願いすることで、MRONJ を予防することに繋がっております。

この様に、がん薬物治療と□腔ケアは切っても切れない関係にあります。引き続き、特に、抗悪性腫瘍薬及び骨吸収抑制薬の投与を行う患者さんにおいて、東京歯科大学水道橋病院による専門的診察、□腔ケアをお願いしていきたいと考えております。

がん患者さんの治療目標は、完治であったり、がんとの共存であったり、生活の質の改善であったり様々であります。その中で抗悪性腫瘍薬や骨吸収抑制薬によるがん薬物療法は年単位の長期的計画の中で進めることが通常であります。今後は、それぞれの患者さんの治療目標に添う形で、当院におけるがん薬物療法の計画と併せて、東京歯科大学水道橋病院歯科医師による専門的診察、□腔内ケアならびに患者指導が、定期的、効率的に継続出来る様にできる工夫が必要と考えております。連携パスや定期的なカンファランスによって、杏雲堂病院と東京歯科大学水道橋病院での診療情報を密に共有していくことで互いの連携が更に深まると考えております。今後共何卒よろしくごお願い申し上げます。

病院長 副病院長 副病院長 副病院長	矢島 安朝 末石 研二 山下 秀一郎 高野 正行	H30.11.1 現在
東京歯科大学水道橋病院 診療科担当医ご案内(レギュラースタッフ)		

診療科名	職名	氏名	講座名		
保存科	部長・教授	古澤 成博	歯内療法学		
	講師	山田 雅司			
		間 奈津子			
	助教	佐古 亮			
	教授	杉内 亜紀奈	歯周病学		
	医局長・講師	齋藤 淳			
	講師	勢島 典			
	講師	大井 麻子			
	助教	喜田 大智	保存修復学		
		今村 健太郎			
	教授	青木 栄人			
	教授	村松 敬			
	准教授	杉戸 博記	老年歯科補綴学		
	講師	春山 亜貴子			
助教	半場 秀典				
助教	中村 圭喜				
教授	櫻井 薫	クラウンブリッジ補綴学			
准教授	上田 貴之				
講師	石崎 憲				
講師	竜 正大				
補綴科	助教	高野 智史	パーシャルデンチャー補綴学		
	助教	太田 緑			
	助教	和田 健			
	部長・教授	佐藤 亨			
	医局長・講師	野本 俊太郎	口腔顎顔面外科学		
	嘱託教員	四ツ谷 護			
	講師	腰原 輝純			
	助教	神田 雄平			
	助教	酒井 貴徳	口腔病態外科学		
	教授	山下 秀一郎			
	講師	(田坂 彰規)			
	助教	森岡 俊行			
	口腔外科	助教	中村 恵子	口腔顎顔面外科学	
			古屋 克典		
		大平 真理子			
		田中 章啓			
教授		柴原 孝彦	口腔病態外科学		
客員教授		高野 正行			
医局長・講師		齊藤 力			
講師		山本 信治			
歯科麻酔科		講師	渡邊 章	口腔顎顔面外科学	
		助教	吉田 秀児		
		助教	大野 啓介		
		部長・教授	片倉 朗		
		准教授	笠原 清弘	歯科麻酔学	
		講師	別所 央城		
	助教	菅原 圭亮			
	助教	西山 明宏			
	矯正歯科	部長・教授	高木 亮	歯科麻酔学	
		部長代理・准教授	一戸 達也		
		講師	松浦 信幸		
		医局長・助教	半田 俊之		
		小児歯科	助教	久木留 宏和	歯科矯正学
			助教	吉田 香織	
部長・教授			末石 研二		
准教授			西井 康		
小児歯科学			講師	宮崎 晴代	歯科矯正学
			医局長・講師	片田 英憲	
				石井 武展	
				(安村 敏彦)	
			助教	海老澤 朋宏	小児歯科学
				内山 沙姫	
	部長・教授		新谷 誠康		
	医局長・講師		辻野 啓一郎		
	小児歯科学		講師	櫻井 敦朗	小児歯科学
			助教	本間 宏実	
		荒井 亮			

( )長期出張中

診療科名	職名	氏名	講座名			
口腔インプラント科	部長・教授	矢島 安朝	口腔インプラント学			
	講師	本間 慎也				
		佐々木 穂高				
	医局長・講師	高梨 琢也				
	助教	守 源太郎	口腔健康科学			
		吉田 光孝				
		平野 友基				
	科長・教授	福田 謙一				
	スペシャルニーズ歯科・ペインクリニック科	准教授	大多和 由美	口腔健康科学		
		医局長・助教	半沢 篤			
		助教	野口 智康			
		科長・教授	武田 友孝			
		健康スポーツ歯科	医局長・講師	中島 一憲	口腔健康科学	
			科長・教授	石田 瞭		
医局長・准教授			大久保 真衣			
部長・教授			後藤 多津子			
摂食嚥下リハビリテーション科			医局長・講師	音成 実佳	歯科放射線学	
			助教	小高 研人		
			部長・教授	井上 孝		
			教授	松坂 賢一		
			放射線科	講師	村上 聡	臨床検査病理学
				助教	國分 克寿	
	助教			(中島 啓)		
	科長・准教授			山岸 由幸		
	臨床検査科			准教授	仁科 牧子	内科
				科長・教授	ピッセン 弘子	
		講師		平沢 学		
		助教		滝澤 菜摘		

( )長期出張中

水道橋病院 診療案内

初診受付	平日・土曜とも8:50~11:00
お問い合わせ時間	平日8:45~18:00 土曜8:45~13:00
休診日	第2土曜・日曜・祝日・ 本学創立記念日(2月12日)・年末年始

【各診療科等ダイヤルインについて】

※患者さまには各科の直通電話番号をお知らせさせていただきますようお願いいたします。

5階	内科	03-5275-1926
4階	口腔外科	03-5275-1725
	歯科麻酔科	03-5275-1851
	放射線科	03-5275-1953
3階	補綴科	03-3262-3425・3426
	口腔インプラント科	03-5275-1760
	小児歯科	03-5275-1723
	矯正歯科	03-5275-1724
	スペシャルニーズ歯科・ペインクリニック科	03-5275-1795
	摂食嚥下リハビリテーション科	03-5275-1732
	眼科	03-5275-1856
2階	保存科	03-5275-1721・1722
	健康スポーツ歯科	03-5275-1721・1722
1階	医事課	03-5275-1932
	地域医療連携室	03-5275-1732

「コラム」

## 患者中心の治療評価

東京歯科大学歯周病学講座 保存科教授 齋藤 淳



歯科疾患やその治療の評価には様々なものがありますが、大きくは医療者側の評価と患者の評価に分けられます。歯周病を例に挙げると、医療者側からの評価としては歯周ポケットの深さや歯肉の炎症程度などが使用されてきました。近年、このような「生物医学的」な評価だけでは不十分であることが広く認識され、患者中心の視点も含めて、より包括的に評価することが求められています。そこで、現在、患者の病気や治療に対する認識を評価する「患者報告アウトカム尺度 (Patient-reported outcome measures: PROMs)」が注目されており、その一つに、口腔関連 QOL があります。本学歯周病学講座では慶應義塾大学医学部と共同で、日本歯周病学会の支援も受けて、歯周治療と口腔関連 QOL について研究を行ってきました。その結果、歯周病は患者の口腔関連 QOL を損なうこと、また歯周基本治療を中心とした歯周病の治療は口腔関連 QOL を改善すること、さらには、歯周外科治療は

QOL を改善しうるが、歯周基本治療の影響のほうがより大きいこと、などを報告してきました。我々の研究に前後して、世界中で歯周病と口腔関連 QOL の研究が行われるようになりました。今、この原稿はカナダ・バンクーバーで書いていますが、参加中のアメリカ歯周病学会でも、著名な臨床家たちが口をそろえて PROMs 評価の重要性について講演のなかで唱えていました。臨床研究の評価項目に含めることはもはや常識となっており、治療法を選択する上でも PROMs が主要な役割を果たしていると感じました。

歯周病や治療を患者の心理・社会・行動面から評価する口腔関連 QOL は、患者中心の関わりを目指す上で欠かすことのできないツールになると考えています。現在、我々は歯周外科治療の種類の違いによる口腔関連 QOL への影響について研究を進めています。どのような歯周治療が、真に患者にとって「よい治療」であるのか、少しずつ明らかになることを願っています。

## LOBBY CONCERT



### 第2回水道橋病院ロビーコンサート

2018年7月21日(土)午後2時30分より、水道橋病院待合ロビーにおいて、第2回水道橋病院ロビーコンサートを開催致しました。

中井麗子さん(歯科衛生士専門学校20期生)、黒木庸子さん(国立音楽大学声楽学科卒業)姉妹による歌唱と福山玲子さん(国際基督教団代々木教会クワイア伴奏員)担当によるピアノ演奏にて公演されました。コンサートは「姉妹によるさわやかコンサート」と題した2部構成で、二重唱、独唱、ピアノ独奏と趣向を凝らし、「私のお父様」「アヴェ・マリア」「芭蕉布」等の名曲が披露されました。

当日は50名以上の方々が集まり、聴衆も参加した唱歌「夏の思い出」も大変好評で、盛大かつ和やかにコンサートは終了しました。

次回は2019年1月19日(土)午後2時30分より、水道橋病院待合ロビーにおいて開催致します。



### 東京歯科大学 水道橋病院

住所 〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町2-9-18

電話番号 03-3262-3421 (代表)

ホームページ <http://www.tdc.ac.jp/sh/>



東京歯科大学水道橋病院

検索

## 編集後記

今年の夏は台風が幾度となく上陸し、多くの災害をもたらしましたが、いつのまにか紅葉の季節となりました。白山通りの銀杏並木の黄色い葉が、水道橋の歩道を埋めています。今回の水道橋畔発は、医療連携報告会と病・病連携を中心にまとめました。水道橋病院の活動の一部ではありますが、皆様にお知らせすることができたかと思えます。次号からは、編集部が増員が決まりましたので、紙面を更に充実できるでしょう。これからも医療連携をより深めていけるよう、水道橋病院の活動を少しずつお知らせしていけたらと考えております。

(片田英憲 記)

▶▶▶次回、第29号では

ご紹介患者様が最も多い口腔外科について詳しく紹介します。